

大 河 空 戰 P B M

# SONIC DIVER

第7回結果発表  
(ゲーム時間: 1958年12月)  
シリーズ通算: 第30回



K.I

☆戦果報告  
《本国基地》

ガルマン大佐：作戦は半分成功だが、半分は失敗だ。しかも失敗した半分がでかい。イエール人どもは、いよいよ駄目だとなつた時に、由井の大半を爆破して行きやがった。火がつかなかつたことだけが唯一の幸いだが、我々が使えるようにするまでには結構な力と手間がかかる事になつた。ともあれ、戦線は順調に伸び、補給線の方も今のところは心配ない。

《空母アイゼンマオアー》

ウンケル中佐：戦果はドローと言つたところだろう。こちらは敵駆逐艦数隻を沈めたが、こちらもこのアイゼンマオアーが航行不能の大打撃だ。沈没するところまでは至らなかつたのがせめてもの救いだが……おそらくこの戦争が終わるまで、この船は戦線には戻れまいだろう。

《日本分遣隊》

栗原二佐：いわきの飛行場が間にあつたのはご存じの通りですが、それが一週間ともたなかつたのもまた事実です。見る限りソ連空軍の練度そのものは大した事はないようですが、物量の差はいかんともしがたいようですね。しかしそれも、もうそれほど長いことではないはずです。ソ連軍は世界各地で戦端を開き、自分で自分の首を締めました。核を使わない防衛手段としては仕方なかつたのでしょうか、今はその後始末に追われている有様です。この極東方面においても、侵攻速度の点ではかつてほどの鋭さは見えません。むしろ「疲れている」ようにも見えます。あともうしばらく持ちこたえられれば、最悪の事態だけは避けられるでしょう。

作戦参加者の状態 (SD:撃墜機数 BS:爆破目標数 SP:評価ポイント OP:作戦参加回数)

プレイヤー	Sqn.	乗機	愛称	キャラクター名	SD	BS	SP	OP	階級	状態	機体
岬当麻	7 1	H n t	Shoot	ブルベイカー	1	0	1	4	7	少尉	生還無傷
	7 1	H n t	G imic	ベティ						中尉	戦死
	E 1	F 4 D	Z Z G	ルー・ルカ	0	0	6	0	20	大尉	生還無傷
	E 1	F 4 D	シルフ	ディードリット						中佐	戦死
篠原崇	7 1	H n t	ショタイ-2世号	伊集院 晓美	1	0	7	3	准尉	生還無傷	
	7 1	H n t	大器晩成	幸村 大介	0	0	1	1	准尉	軽傷	中破
	7 1	H n t	にくまるくん!!	島津 泋子					中尉	戦死	
	7 1	H n t	-	トロン・ミラン	2	1	6	2	准尉	生還少破	
	7 1	F 8 6	翠玉女伯爵	レジーナ・ライス	3	0	4	9	16	大尉	生還無傷
	7 1	F 9 F	くいんまんさ♡	エルピー・ブル	2	0	5	7	18	大尉	軽傷少破
	7 1	J 3 5	着い彗星	エル・プライス	5	0	11	9	26	中佐	生還無傷
	9 9	H n t	アクシズ	榎原 良子	0	2	5	1	准尉	軽傷	中破
	9 9	H n t	ウォーパンセス	アルコ・クラッハ	0	5	1	6	2	少尉	生還無傷
	療養	H n t	-	アール・デュマレスト					准尉	回復	
木村博昭	0 1	H n t	ウルフハンター	エッダ・ミュートン	4	0	5	1	准尉	軽傷	中破
	9 9	1 1 9	ウッド	スカ・ウイルキー					中尉	戦死	
	9 9	F 9 4	モーリントン	カルナーカ・ホルン	0	0	1	3	7	少尉	軽傷少破
	9 9	A D	スチューター	モーリン・ハット					12	6	
				セシル・ヒューストン	0	5	4	9	7	大尉	生還無傷
菅原忠幸	0 2	H n t	ワイルドキャット	レイチェル・サラー	2	0	5	3	准尉	重傷	中破
	0 2	S v x	双牙	キリーケ・シマー	3	0	4	6	17	大尉	軽傷少破
	0 2	F 8 U	昇竜	アーサー・ベリー					12	3	少尉重傷
	2 2	F r b	千鳥	リュウ・シキフネ	4	0	15	329	大佐	生還無傷	
	2 2	A D	中角	ヒロト・クマガイ	0	2	6	2	准尉	重傷	撃墜
				ロン・シャオレン	1	3	3	5	7	中尉	生還無傷

	2 2	J 3 2	剣歎虎	ケン・ホー・キム ギンゾウ・テル ファイア・アロー フロンティア・スピリット	0 3 5 8 1 1 1 7 3 0 3 6 8 1 4 0 1 7 4 1 5	大尉 生還 少破 少尉 大尉 軽傷 少破 少佐 生還 無傷
遠藤誠	7 1	F 9 4	慈雨	五島 三四郎	3 0 1 5 8	少尉 軽傷 少破
	2 2	F r b	ストーカー 1	望月 浩二	0 2 1 8 8	少尉 軽傷 少破
	2 2	F r b	ストーカー 2	ボールドワイン	0 5 2 0 6	少尉 生還 無傷
	9 9	F 8 6	ベアトリーチェ	マクレーン・シーカー	2 2 5 0 9	大尉 生還 無傷
	E 2	F 9 F	メリーセブンⅢ	ジョン・シェンカー アン・ブレリアン	2 0 3 1 8 少尉 回復	中尉 生還 無傷
日高耕	9 9	H n t	Visnu	ガーン・デヴィ	0 4 1 4 2	少尉 生還 無傷
	9 9	H n t	Hephaestus	チュアン・マクガイア	0 0 1 7 8	少尉 生還 無傷
	9 9	F 9 F	ノイン・グロース・フォルク	ウォルフ冈ソング・マクガイア マータ・ディオ	2 2 3 5 1 0	中尉 生還 無傷 准尉 回復
赤木崇敏	2 1	H n t	Etude	レナルド・ウォルポール	1 2 8 3	准尉 生還 少破
	9 9	H n t	Rondo	ルイス・ティエール		中尉 撃墜
	9 9	H n t	Serenade	ジェフリー・オーウェン	2 2 7 1	准尉 軽傷 少破
	9 9	H n t	Solo	エルネスト・クローチエ	2 3 9 1	准尉 生還 無傷
	9 9	J 2 9	Choral	バウル・ミュンツァー	5 0 1 6 3	少尉 生還 無傷
	9 9	J 2 9	Recitative	アルベルト・ピューロー	0 0 7 3	准尉 軽傷 少破
	9 9	B 2 6	Ballad	アルフレッド・クルップ フィリップ・プラント ジュリオ・グラムシ	0 5 1 1 1	准尉 生還 無傷
	9 9	J 3 2	Aria	アウグスト・シュレーゲル ルードヴィヒ・フォイエルバッハ	0 0 2 2 8	少尉 重傷 撃墜 中尉 戦死
	9 9	F r b	Prelude	オットー・ブルンフェルス	0 3 2 7 8	中尉 生還 少破
	9 9	A D 4	Concerto	カール・シュレーゲル	0 5 3 0 8	中尉 生還 無傷
井村和正	7 1	H n t	—	ゲーリケ	2 0 3 1	准尉 軽傷 中破
	9 9	A D	—	ホームート	0 3 3 7 8	中尉 生還 少破
	9 9	S f r	—	フォルスター	0 2 3 9 7	中尉 軽傷 少破
	9 9	A 3 D	見敵必殺	メルダース	0 0 8 2 2 2	少佐 軽傷 中破
秋信敏男	0 1	I 0 0	—	J. E. Warnock	1 0 6 0 2 5	大尉 生還 無傷
	7 1	H n t	—	K. Penn	0 0 6 5 1 7	大尉 軽傷 少破
	2 2	F 9 F	—	S. Venturs	2 2 3 2 7	中尉 軽傷 中破
	9 9	F 8 4	—	田島 昌治		中佐 戦死

☆申請機の略号

A D 4 … A D – 4 スカイレイダー

☆申請機の価格

A D 4 … A D – 6 と同じ

☆申請機の性能

A D 4 … A D – 6 と同じ

☆戦果報告

《本国基地》

オイラー大佐：正直言って、まずいぞ。ブニュ油田まで一気に取られた。その先は山が海岸近くまで迫っていて大規模な軍事行動は難しい地形だが、わが国的主要な油田の一つを失った痛手は小さくない。また、南方軍司令が、スパイ行為のかどで射殺された。ゲリラに武器と情報を横流していたという話は本当だったようだ。

《空母ストロワヤ》

マイヤーズ中佐：連合国は我々の存在について、かなり確度の高い情報を得ていたと思われる。こちらで配備に着いたすぐ後から、米軍はもとよりイザベリア軍の空母までが、輸送艦ではなく、このストロワヤを攻撃してきた。おかげでこの艦もドック入りしなければならない深手を負った。上の意向では、ドック入りついでに船をソ連に売るらしい。諸君の艦上任務もこれまでだ。ご苦労。

《日本分遣隊》

ミリヤーコフ少佐：黒磯攻略は成功裡に終わった。現在全軍は関東平野の豊富な工業力を手中におさめるべく、なお前進を続行中である。欧州等における全世界規模の陽動作戦は現地部隊の低い作戦能力のために崩壊しつつあるが、要はこの極東作戦が完了すればよいのである。気にせず任務に務めよ。

作戦参加者の状態 (SD:撃墜機数 BS:爆破目標数 SP:評価ポイント OP:作戦参加回数)

プレイヤー	Sqn.	乗機	愛称	キャラクター名	S	D	B	S	S	P	O	P	階級	状態	機体
笠原和子	0 1	M 1 5	Gold	J. ウォーカー	0	0	5	3	准尉	軽傷	中破				
	1 1	M 1 5	Twenty Five	S. アンバサダー	0	1	7	3	准尉	生還	少破				
	3 3	H u r	B R I T I S H	C. モカ	0	2	5	9	7	大尉	生還	少破			
	V A	F 2 H	Appletree Fizz	G. ピーフィータ	1	0	1	6	4	少尉	軽傷	中破			
宇垣麻美	V F	F 9 F	—	M. プルミエ	0	0	1	1	准尉	軽傷	少破				
	V F	F 9 F	—	ムーラン・ヴァン	0	0	1	1	准尉	生還	無傷				
	V F	F 9 F	—	V. ブレティフ	0	0	1	1	准尉	軽傷	中破				
	V F	F 9 F	—	B. アンペリアル					中尉	戦死					
正宗征士	0 1	F 8 0	—	マイク・ケリイ					中尉	戦死					
	0 1	F 8 0	—	ジム・ガーヴィー					中尉	戦死					
	0 2	F 2 H	一日司令	真尾 まお					中尉	戦死					
	2 1	M 1 5	—	ミラード・ワシントン	1	1	1	4	3	少尉	生還	無傷			
山田国見	1 2	M 1 5	Harpy	インクリーズ・メーザー	0	0	5	3	准尉	生還	少破				
	1 2	M 1 5	—	アンドレス・ベーリョ	1	0	2	1	准尉	軽傷	無傷				
	1 2	M 1 5	—	ヤコブ・スマット	2	0	6	2	准尉	軽傷	少破				
	3 2	I 1 2	Gargoyle	アーウィン・フリードレンダー ジオルダーノ・ブルーノ	0	3	7	1	准尉	生還	無傷				
	3 2	F 9 F	Griffin	ニコラス・ワイスマン	1	0	4	2	8	中尉	軽傷	少破			
	3 2	F 8 4	Thunder Bolt	オマール・ハイム	0	5	5	3	8	大尉	生還	無傷			
	3 2	B 2 6	Vampire β	トマス・アクイナス ジョン・ホワイトハースト ヨハネス・シュタルク	0	5	5	5	8	大尉	軽傷	大破			
	3 2	B 1 N	Awkwardness IV	カール・ドルス レオン・ブルームハルト	0	4	7	2	1	少佐	生還	少破			
	V A	A D	Mermade	キャロル・グラック ジェームズ・キングズベリ ヴァイン・シュトライザー	0	0	5	0	6	大尉	生還	無傷			
	療養									少尉	回復				
	療養									中尉	回復				
下永弘典	C 2	M 1 5	7 3	ダーヴィド・ラッセン	2	0	1	7	6	少尉	軽傷	中破			
	2 2	M 1 5	B 1	イヴァン・ロイシン	0	0	6	2	順位	生還	無傷				
	3 2	A U	6 1	レオニード・ユースポフ	0	3	4	9	7	大尉	生還	無傷			

	V E	A U	5 2	ヨーリイ・ロマノフ	1	0	2 2	7	少尉	生還	少破
	V E	A U	9 1	ウイスカー・オーゼル					大尉	戦死	
	V A	A U	A 1	ジャック・プロジェクト	0	0	5	3	准尉	生還	無傷
吉楽征二	0 1	M 1 5	K. K. コンビ	K. ゲルハルト	1	0	8	3	准尉	軽傷	少破
	0 1	M 1 5	K. K. コンビ	K. スレッグ					准尉	事故	
	0 1	F 9 F	—	ボボ・ブラジル					中尉	戦死	
	3 1	B 5 7	—	吉田 剛 上杉 健男	0	3	5 3	6	大尉	生還	無傷
							2 7	3	中尉		

☆申請機略号

B 1 N … ボートウール II - 1 N

## 次回の作戦

### 《イザベリア軍》

ガルマン大佐：ブニュ油田が確保されないことには、その先へ進んでも戦略上あまり意味がないというのが、上で決定されたことらしい。従って今回我々に与えられた任務は、「ブニュの確保」である。敵もおそらくここを確保しに攻めてくるはずだが、我々と奴らの間には狭い平野があるだけで、大きな行軍は難しい状態にある。制空戦の方が厳しいのは諸君にも分かるだろう。

〈日本〉

栗原二佐：政府と陛下が大事を取って名古屋へ避難しました。国民の疎開計画もほぼ順調に進行している模様です。従って我々も東京を死守する必要はなくなったわけですが、必ずしも手を抜いてよいということではありません。今月の作戦は、敵に何が何でも利根川を渡らせないことです。我々は羽田から出撃します。

☆部隊編成

〈ブニュ〉

飛行第70戦隊（対空迎撃）

飛行第72戦隊（対地迎撃）

〈羽田〉

飛行第71戦隊（東京防空）

独立飛行第99中隊（対地攻撃）

### 《イエール軍》

オイラー大佐：ブニュに拠点でも確保する気なのか、敵の進撃はほぼ完全に停止している。我々としてはこのチャンスを逃す手はない。よって、定石通りブニュで足踏みしている彼らを遠慮なく叩く。ただし気をつけてもらいたいのは、優先攻撃目標が油田施設などいうことである。敵の狙いは正にあそこの石油にあるからだ。我が軍の工作員がある程度破壊はしたが、それとて再建されてしまっては仕方がない。

〈日本〉

ミリヤーコフ少佐：諸君、いよいよ文字通りの東京侵攻である。武力侵攻という、あのアメリカ軍でさえなし得なかった歴史的偉業に諸君等も参加する権利が与えられたのだ。攻撃目標は、動くもの全てである。たとえ乳母車であろうとも、諸君は一つ残らず破壊しつくさねばならない。敵の反攻は今までになく厳しいだろうが、偉大なる収穫を期待する。以上だ。

★部隊編成

〈タンジュンレデブ〉

9 0 RW（迎撃）

9 1 RW（ブニュ制空）

9 3 RW（ブニュ爆撃）

〈百里〉

9 2 RW（東京侵攻）

## REST TIME

ACT. 30

### N O T E

※今回の参加・投稿物締切りは3月20日（必着）です。入試関係で郵便事情が悪化する時期ですので、遅めに出される方は特に注意して下さい。

※今回から料金制度が変わります。ご注意下さい。

※イエール軍の傭兵が日本での任務に就く場合、一旦中立国を経由してモスクワ方面から遠まわりしなければならないため、行動期間で半月をロスします。その分戦果が低くなっていますので、ご了承ください。

※イエール軍で日本勤務を行う場合、次の兵器は入手できません。

AIM-7 5 in HVAR ソ連製以外の全機種

### 教育的指導！

・ AIM-9C は F8U-2N 専用です。

### 今月の動き

○ 1958年11月20日の「朝日新聞」：本土を侵攻し続けるソ連軍は19日未明、遂に関東平野に到達した。

○ 同20日の「シェド・ドイチュラント・シュピーゲル」：極東に引き続いてヨーロッパでも侵略行動を引き起こしたソ連軍は、NATO連合軍の反撃が効果を現わしたか、撤退を開始した。

○ 同25日の「ワシントンポスト」：中央アジアで軍事行動を引き起こしたソ連軍部隊が、20日ごろから撤退しあげていることを、22日の記者会見で国防総省が発表した。

○ 同30日の「トゥルース」：本日未明、イエール陸軍南方軍司令官ターキー中将が、官舎付近の用水路で、死体で発見された。中将は全身に銃弾を浴びており、ゲリラに暗殺された疑いが持たれている。中将夫人の話では、中将は前日の朝官舎を出て以来、死体の発見まで一度も自宅には戻らなかったという。

○ 12月2日の「ニューヨークタイムズ」：フルシチヨフソ連首相の解任が、10月1日に開催された臨時党大会で正式に決議された模様である。

○ 同7日の新華社電：人民開放軍は6日未明、珍宝島付近で国境を侵犯したソ連軍部隊を攻撃、これを撃退した。

○ 同10日の「読売新聞夕刊」：政府は本日午前8時ちょうど、名古屋国際ホテルにおいて記者会見し、同日午前零時をもって首都を名古屋に移転したことを正式に発表した。当面の仮政府は同ホテル内に置かれる。天皇陛下は前日、東海道線を利用して京都御所へ移られた。

### Q & A

Q1：日本での部品購入は1.2倍と言われましたが、新しい機体を購入する場合もでしょうか？また、レンタル料もそれに比例して上昇するのでしょうか？

A1：その通りです。

Q2：F-104Gのレーダーは対地のみでいいんですか？あれは迎撃もやってたと思いますけど。

A2：G型の火器管制装置は、対地モードが主なので。またJ型も含めて、104のレーダーはこの時代で既に迎撃について満足に使用されうる代物ではありません。

Q3：イエールの機体リストには、「5 in HVAR 8発」のルールが書かれてませんが、どうなのですか？その場合、イザベリアのAD-6は12発つめるんですが、イエールのはどうなりますか？

A3：…すみません、私のミスです。イエールでも「8発」ルールは生きてます。そして、ADは両国共に12発までHVARをつめます。

Q 4 : もう少し軽い通常爆弾は作れませんか？

A 4 : 50kg未満となると、普通は訓練用の爆弾になるので、だめです。……あ。イエールには244kg以下の爆弾がないんでしたね。ナム戦シナリオからつけます。

Q 5 : 空母作戦は日本勤務に入りますか？

A 5 : 日本近海にいるかぎり、そうなります。ただしイエールの空母勤務は、機材の面で選択の余地がないため、「ソ連機のみ」の制限は特例として対象外になります。

Q 6 : ストロワヤに近代化改修を施す計画はありますか？直線甲板+油圧カタパルトだと、事故が起き易そうな気がするんですが。

A 6 : イエールにはそれだけの工事をやる余力が、今の段階ではありません。従って予定もなし。それに、近代化改修のためのノウハウがイエールに入る前に、革命が起きたので……。

Q 6 : ストロワヤのVEとVAはどう違うんですか？

A 6 : VEは空の脅威を、VAは水面から下の脅威を攻撃するものです。

Q 7 : フランスからの増援って何でしょう？エタンダールかな？

A 7 : AMXなどの地上兵器です。あとは仏軍外人部隊が入国したとかしないとか……

Q 8 : イエールって公用語英語ですよね？東側で英語ってすごくないですか？

A 8 : 別に凄かないでしょう。まかり間違えば日本語しゃべる東側国家が成立してたかも知れないんだし。

Q 9 : 対ゲリラ戦は最近どうなってるんですか？広がる一方のようですが。南方軍司令がゲリラと通じてるとかいう話もあったと思うけど、それどころじゃないのかな。

A 9 : これについてはニュースの方を参照。日本戦線に気を取られて、こっちの方をすっかり忘れてたってのが、本当のところです。

### 「Blowers」関係の告知

※13号が発行されています。少し値上がりして650円です。

### キャラメッセージ

☆K. Penn氏へ

ありがとう、助かったよ。この借りは必ず返す。それと、礼と言っちゃあ何だが、今晚一杯どうだ。おごるぞ。  
イザベリア海軍傭兵リュウ・シキフネ

### Voice of 参加者

『あまり気を張らずに頑張って下さい。未だに出る気配のないタクテクスに比べたら定期的に出ていると思います。それにしても忙しいのと朝鮮戦争期～現代戦における空戦に興味が薄いので、話に加われぬ……』  
(イザベリア・東京都・篠原崇)

『……タクテクスって、廃刊になったのと違いましたっけ？』

『SDの合併の件ですが、私はやらない方がいいと思います。なぜならSDがBlowのおまけ的なものになり下がってしまう可能性が大だからです。しかもSDとBlowをいつも同時に出来ねばならないということになると、それだけ菊地さんの労力も大変になるはずです（送る手間は別にしてですよ）。SDとBlowを一緒にするとても、一冊の本にまとめるのではなくて希望者または参加者にはSDを配布とした方が良いと思いますが……』  
(イザベリア・京都府・木村博昭)

『……あの、最初と最後で意見が矛盾しているように見えるのは、気のせいかな？』

『とりあえず私の方の「手間」については考えなくていいです。結局今でもSDの処理とBlowの編集は交互（並行）にやってるんで、変わりません。それにSDが遅れると流れでBlowも遅れるし、逆もまた有。落ち着いて考えてみると、分冊発行の方が負担でかいんですよ。折るページ数も増えるし。』

しかし今回のイザベリアの戦果、すごいですねえ。某氏の統計によると、無傷で戻ってきた機体は全体の21%、被弾したもの39%、大破・撃墜・戦死したもの38%（なんか、計算が100%になりませんが、ひまですねえ）AS時代に戻ったようです。それに加えて、ソ連軍、ちょっと強すぎませんか。極東に兵力集めてるからだろうと思っていたけど、違うようです。

（イザベリア・宮崎県・日高耕）

ASの時もひどかったねえ（何だか年寄りみたいだ）。ソ連軍の強さの秘密は、ニュース参照。これが今回のシナリオのポイントです。

### 国民投票のこと

「SONIC DIVER」と「Blowers」の合併は、賛成多数により、今度出る第31回目より実行いたします。投票ありがとうございました。次の点が変更されます。

- |  |
|--|
| ・料金 Blowers代として650円。（¥400+¥250）ただしSD参加料は無料 |
| ・機数制限 プレイヤー一人当たり10機まで                      |

以上

### 大阪空技廠お茶会企画

3月7日(日)雨天決行です。15時ちょうどに大阪環状線・弁天町駅の真下、交通科学館の正面口に集合して下さい。入口ロビー（そんなに広くはない）で憔悴しきった（プライベ明けなので）老け顔の男が、赤キャビンかエコーで煙幕を張ってるはずです。忘れてなければこのBlowersも持っているはずなので、声をかけて下さい。10分くらいまで待って誰も来なけりゃ一人で見て回って、とっとと行ってしまいます。遅刻はなるべく避けて下さい。経費の方は交通科学館入館料が200円(500円だったっけ)、食事代(軽食の予定)として相応分です。しめて1000円もあれば充分でしょう。終了予定期刻は17時。……ちなみに状況次第では集合後、科学館には入らず、初の京都入りを果たして「梅小路蒸気機関車館」を見物するかも知れません。この時はそれなりの電車代が要りますが……別に無理に行くつもりはないので、不安はありません。みんな貧乏なのは一緒。飛び入りは熱烈歓迎。前回見事にボシャった事もあるし、皆さんぜひ来て下さい。……空技廠の「原点」が、ここにあるんだってば。

### 横浜空技廠お茶会企画

こっちのバトルテック大会は、3月21日(日)に行います。雨天決行、集合場所は東急東横線・横浜駅1F改札口横、切符売場の一番奥です。そこだけ比較的空いているので、すぐ分かります。時間は12時丁度。このBlowers持ってボケ一つ赤キャビンを吸っていることでしょう。もしかするとエコーかもしれない。

そそこの人数が集まりしだい昼飯を食べて、それからゲームにかかります。終了予定期刻は17時。もしかするともっと早いかも知れません。遅くなることはまずないはず。参加費はゲーム代(2000円+α)、昼飯代(物価は高い)として相応分。

なお菊地は赤貧に喘いでいるので、お金の準備は怠りなく。足りなくなつてもお貸しすることはできません。ちなみに飛び入りはこちらも大歓迎なので、今まで参加の連絡をしてなかった人も、時間が空いたらぜひ来て下さい。

### 編C 後記

このシリーズも30回を数えて、何とか峠を越した感じです。思えば遠くへ来たもんだ。Blowersとの合併も「母屋を貸して何とやら」のようで、ただまとまつた回数を見て実行に移せることだけが唯一の救いと言つたところでしょうか。この朝鮮期シナリオも近々ラストです。世界情勢の方は私の不手際で書き切れなかつたことがたくさんありますが、今後の展開に支障を来すことはないです。……とおもう。……だといいな。

※Blowers14は3月末日発行予定です。

# 榛名とはるな

本居こじ・作

ACT. 14 The Toy. (Sec. 1)

その校庭は、異様な雰囲気に包まれていた。広い土のグランドの中央ではキャンプファイアの如く井桁に組まれた角材が、灯油の助けを得て激しく燃え盛っている。

中心に立てられた真鶴学園の校旗に火が移ると、真っ黒の和服——喪服である——をまとった勅使河原がついと炎に歩み寄った。彼女は胸に真鶴学園の制服を抱いていた。第一種冬服、つまり正装である。彼女はそれにキツネを連想させる、鋭いナイフのような一瞥をくれると、何も言わず一息に火の中へ放り込んだ。

彼女はうなずいた。それを受け、やはり喪服姿の三河が炎の周りを取り囲む生徒、ヤクザたちに告げた。

「はじめっ！」

彼らはまるで何かに操られでもしているかのように、まったく同時に動きだした。一様にずりと長い黒のローブをまとっている生徒たちは、自分の制服をすべて投げ込むと、一旦火勢が戻るのを待って今度は避難して行った生徒たちの私物を処分し始めた。彼女たちとは対照的にラフな姿のヤクザたちが加勢する。——すべては無言のうちに進んだ。

「静かな狂気」——それだけが、その場を表現した。

しかし、その仲にわずかではあったが、あまり動いていない集団があった。三河はその集団を見逃さなかつたが、しかしあえて無視した。

真鶴警察署は真鶴市街の中心部に、消防署と町役場の合同庁舎として建っている。お世辞にも広いとは言えないその庁舎は今、通常の二倍の人間を抱えてパニック状態にあった。「真鶴学園女子部ジャック事件対策本部」がここに置かれ、県警本部及び周辺各署からの応援、報道関係者、観光がてらのヤジ馬（これが最も多い）、「近所の父兄その他大勢が一気に押し寄せたからである。

「現場からは何も言ってこんか……」

固く閉ざされて外の喧騒から切り離された一室の中で窓外の混乱ぶりを苦々しく見下ろしていた、中年の首班らしい男が言った。よく見ると警部である。しばらく前から無線機にかかりっきりの少し若い巡查部長は首を振った。

「何もありません」

「あのことはまだ外部にはもれていまいな」警部は言った。「あの、連中が持ち込んだミサイルのことは……」

「まだです」

「絶対に漏らしてはいかんぞ」警部はブラインドを閉めた。「まして、その狙いが厚木、横須賀、永田町に向いているなど……」

その「現場」では、今し方上空から写真偵察を行った百里基地の自衛隊機が残した轟音が、ようやく消えようとしていた。その場に配置されていた警察官たちもミサイルと目標のことは知っていた。だから、うかつなマネができないことは重々承知していた。張り詰める緊張感には想像を絶するものがある。

校門と周辺道路を封鎖している車の中には、車体がひしゃげたものも含まれている。一番最初にやられた覆面車の生き残りである。彼らがすぐに追跡を続行したお陰で、道路封鎖までの一連の作業はスムーズに行うことができたのだった。

男子寮のテレビ室は定員の1.5倍の人数で熱気に包まれていた。普段見に来ないものまでやってきたのである。会議室から講堂に運び込まれた一台の24型テレビの前には女子生徒が鉛なりになっていたし、事務室や寮の倉監室の14型のものの前には教職員が目白押しになっていた。

テレビはすべてテレビ神奈川を流していた。全国ネットと違い、前代未聞の学校ジャックの報道に力を入れていたからである。その点某国営放送などはクールなもので、地方版ニュースの一部としてサラリと流すに留まっていた。

UHFの電波は小田原中継局から相模湾を越えてまっすぐ飛んで来てはいたが、背後の山に反射されてしましばしば画面が荒れた。それでもその提供するニュースはどこよりも早く、また有益だった。

夜がふけようとしていた。

女子部内は短機関銃を携えたヤクザたちが二三人ずつ組になって巡回し、警官隊の強行潜入を警戒していた。人数が半減してひっそりとなつた女子寮内は電灯が消され、窓も相変わらず締め切られていた。にもかかわらず強く甘い香の臭いは窓外へ漏れ出している。それはかすかに薄まって、門外に集結する警官隊の方へも漂っていた。

それまでの警察回線による交渉から、当局側では主犯は狂信的新興宗教との考えを固めた。——だからどうなるものでもなかつたが。かえってややこしくなるばかりであった。そして、犯人グループの要求がいま一つハッキリしないことが、当局側を一層困惑させた。

そのせいもあってかどうか、寮の中にそれほど信心深くない一団がいることには当局側も気付いていなかつた。彼らが必死でSOSを発していたにもかかわらず、である。

——メー・デー！メー・デー！

うつすらと月明かりの差し込む寮の一室で、自作らしい携帯型短波無線機に向かって、押し殺した声で連呼する女の子がいた。

——メー・デー！メー・デー！

「メー・デー」は国際ラジオ規則による、いわば無線電話のSOSである。隣のベッドで、仲間らしい子が心配げに彼女を見守る一方、廊下の足音に注意深く聞き耳を立てていた。

男子部事務室脇のカード式公衆電話で、榛名が横浜の自宅に電話していた。混雑した避難直後を避けて、夜まで待っていたのだ。先に済ませた宇垣と南雲、それに山城が脇で待っていた。

「——うん、今のところ何もない。怪我もないし、みんな大丈夫」

落ち着いた口調で彼女は報告を片付けていった。カード度数のメーターがどんどん落ちていくが、そんな事も気にならないようだった。はるなの事になるべく触れないように苦心していたのである。

「授業は二部授業でやるって」

——ところで、はるなはどうした？そこにいるんなら、出してくれ。声が聞きたい。  
おまえたちは滅多に帰って来ないから……

「はるな？」

父の言葉に、彼女は口ごもった。南雲が見兼ねて「テレビ！」とささやく。うなずいて、榛名は再び口を開いた。

「——今、テレビにはり付いてる。私の代わりに見てる」

——捕まつたんだな？

「……うん」

どんなに努力したところで、すべてを親に隠し通せるものではない。榛名は落胆した。そこへ何を思ったか宇垣がグイと受話器をひったくり、一方的にまくし立てた。

——突然ですけどオレ、じゃない私、榛名のダチの字垣って言います。下のはるなね、捕まりましたけど、ただの人質ですから。——いや、だから、生徒の中にも自分から捕まって手伝ってんのとそうでないのがいるんですよ。そんなところで怒ったって。んで続けますけど、あいつは悪い方でサツ、じゃなくて警察の世話にやなりませんから。んじや、後がつかえてんで切れますよ。

言うだけ言って、彼女は電話を切った。そして、出てきたテレホンカードを榛名に渡し、自慢げに言った。

「現況報告ってなア、こうやるんだ」

山城以外はただただ呆れるばかりである。その山城は、知らんふりであった。やがて、南雲がぼつりと言った。

「さすが、怒られ慣れてる……」

「少し遅れたかな」

咳きながら、赤城はハムのスイッチを入れた。夜中に三十分ほどアマチュア無線に向かうのが彼の趣味で、いつも十時ごろに開局するのである。

あまり大きくはない無線機のスイッチをいろいろいじり回すうち、彼は奇妙な放送をキヤッヂした。

「ん？」

それはかなり小さな声だった。出力は並みのレベルを示しているから、もとの声そのものが小さいのだろう。外の警察無線の影響か空電がひどく、なかなか聞き取れるものではない。

(はた迷惑な……)

そう思って周波数をずらそうとしたまさにその刹那、何の偶然からか相手の言うことがきれいに聞こえる瞬間ができた。

——メー・デー！

赤城の頭にどっと冷や汗が噴き出した。痛くなるほどの速さで頭が回転し始める。急病？遭難？……誘拐？

「C Q、C Q、こちら真鶴学園の赤城。今メーデーを発信してるのはどこだ!?どうぞ!?'

しばしの空電。同室で、ベッドの上段に横になっていたカナダ人留学生、ギャラハド・ブライアンドが身体を起こす。彼もハムをやっていた。

「メーデー!?' ギャラハドは言った。「ワッ・ハブン？」

「S hush！」

赤城は口に人差指を当てて黙らせ、反対側の手でイヤホンを押された。

——そっち男子部なの？私、名前はちょっと勘弁して。で、いま外どうなってるの？

「男子部の中3、赤城です」彼は一語一語ゆっくり、ハッキリ言った。動悸がやかましかった。「女子部の周りは警察が固めてます。詳しいことはよく知らないんですけど」

同室の信濃が後ろから肩をたたき、スピーカーを指した。俺たちにも聞かせろという合図である。赤城はスイッチをつないだ。

——とにかく、早く助けて！気が狂いそうよ！

音量は大きめにしてあるのだが、周りの空気の音の方が大きくて、聞きにくいことはなはだしい。

「先生に言った方がいいぜ、こりや」

赤城はうなずいて、言った。

「女子部さん、こちら赤城。今から先生につなぎます。……十分したら、また呼んで下さい。気をしっかり持つて」

そう言うと引出しから市販の携帯型短波無線機をつかみ出し、周波数を合わせると舍監室へ飛び出して行った。

(A C T. 14 続)

0  
600km

